

No.792 四日市市におけるコンビナートでの水素利用検討

2016年12月30日

株式会社ユニバーサルエネルギー研究所

2016年12月24日に、三重県四日市市では新市長として森智広氏が就任した。森氏は現在38歳の元会計士で、2011年4月から四日市市市議会議員にトップ当選し、2015年にもトップで再選。2016年4月には次期市長選への出馬を表明し、今回の就任に至った。無所属。

森氏は初登庁した12月26日に会見で、産業振興施策として「水素エネルギーを活用して(四日市港の)石油化学コンビナートを再生したい」とし、また、「水素を活用してビジネスチャンスを作っていきたい。必要であれば特区を申請し、国と連携しながら、規制緩和や補助も含めて行政が全面的にビジネスを支援していく体制を整えたい」と語った。

しかし現在、具体の施策についての言及は見られない。そこで、森氏が市議であった2011年以降の最近で四日市市にて見られたコンビナートにおける水素利用検討の状況を整理する。

●平成28年度は調査事業に700万円計上

2016年2月、四日市市は次年度(平成28年度)予算において、新たな産業活性化施策として「水素社会の構築に向けた公民連携促進事業」に700万円の予算を計上した。この事業では、市内の水素関連事業所や市との連携を促進しながら、優位性のある新事業への展開を探ること、ものづくり産業のさらなる集積高度化を図ることを目的としている。そしてそのために、水素社会における四日市市を取り巻く現状把握や、優位性のある新事業への展開について検討調査を実施することとしている。

この件について森新市長は、3月16日付の自身のブログ記事「【水素社会に四日市市はどう対応していくか】～水素社会の構築に向けた公民連携促進事業～」にて、以下のようにコメントしている。

「石油化学産業の国内需要が伸び悩む中、新しいエネルギー(産業)への転換を推し進める為にも非常に大切な取り組みになります。来るべき水素社会の到来において、コンビナートの特性から本市は水素エネルギーの供給側に立てる訳です。この特性を活かして、地域産業の強化を図っていかねばいけません。しかし、私から言わせてみれば、今回の予算の上程は動きが遅いとしか言い様がありません。本市が持つ強みを認識して国の動きも見極めながら行政は迅速な対応をしていかねばなりません。」

●第1回委員会

2016年7月、本件についての委員会「四日市コンビナートにおける水素関連事業可能性検討委員会」の第一回が開催されている。

委員としてコンビナート関連事業者（石原産業(株)、NHネオケム(株)、コスモ石油(株)、昭和四日市石油(株)、東ソー(株)、三菱化学(株)）が参加した。

行政からは経済産業省、NEDO、三重県、四日市市が参加している。

また、事務局は、四日市市商工課と、(株)三菱化学テクノリサーチが務めていた。

第一回委員会では、関係事業者に(株)三菱化学テクノリサーチへのヒアリングへの回答を促すものであり、目的はコンビナート内の水素賦存量とその実態を把握するためのものであった。

なお、11月に予定されている委員会について、議事は2016年12月現在、公開されていない。

**臨海部コンビナートにおける水素を軸とした連携
想定ケース**

狙い 適正価格・適正品質の水素を安定供給&安定消費することにより、経済的効果および社会的意義を追求する。

課題 原料融通・設備余力活用・集約・水素融通

技術 圧力・純度・不純物・バックアップ・変動吸収・副生ガス利用

どのように連携するのか？ 例：共同事業体

- ①事業所トップ・企画トップ・企画担当の密な協議体の形成
- ②需要家の参画
- ③行政の支援・後押し

図. 四日市コンビナート内での水素を軸とした連携として想定されているケース

(出典：(株)三菱化学テクノリサーチ 委員会資料)

ヒアリングのねらい 「将来の可能性」に関する意見交換

- 1) 一般値(プロセス・数量・組成・品質・価格など)を、事務局より例示致します。
- 2) 将来の可能性(原料供給・水素製造・水素消費)について、意見交換をお願い致します。

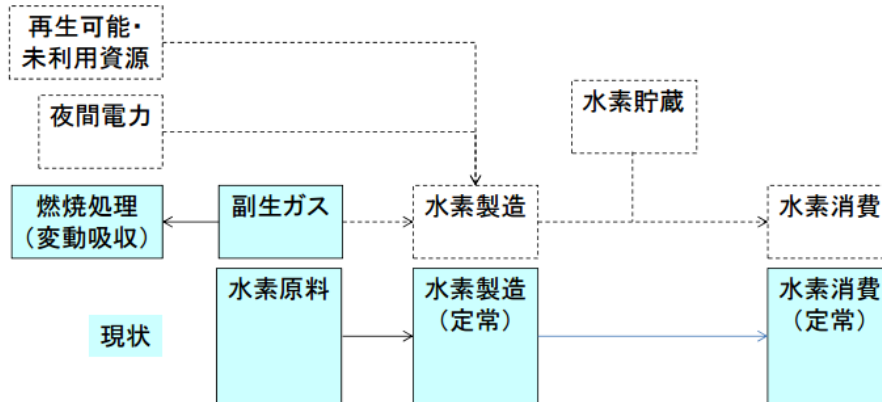


図. 四日市市におけるコンビナート内水素の事業可能性検討

(出典：(株)三菱化学テクノリサーチ 委員会資料)

以上